我が良き友

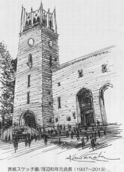
三島稲門会
会長　益原章生

昨年八月「ザ・仲次郎」で新人歓迎会があり、その席で来年度の総会に誰を講師として招くか議題になりました。思わず小生の同期の友人にあの有名な野村徹元監督がいると発言したところ、皆揃って是非お願いしたいと賛同してくれました。早速その場で彼の携帯へ電話したところ、二つ返事でＯＫのサインをくれました。素早い対応に一同ビックリポン。「半年先生きているかどうかわからないけど、益のためなら行くよ！」――卒業後五十数年の歳月を経て、有難いこの言葉、友情の絆に感謝感激しました。これぞ早稲田精神の真髄だと確信しました。

いまや神宮の伝説となった早慶六連戦、早稲田が勝利したのはキャッチャー野村の冷静沈着なリードがあったからこそです。あの大昭和を優勝に導き、退職後は指導者の道へ邁進、低迷する早大野球部の再建の切り札として登場、強い早稲田を甦らせてくれました。皆さんと一緒に伝説の男、野村徹さんの講演を拝聴出来ることは最高の幸せであります。今年度の総会がワセダに学んでよかった、三島稲門会で良かったと確信する一日になると期待しております。

今年は早大応援部の公演を沼津稲門会と共催で実施します。応援部の主将に韮山高卒の鈴木君が就任しました。彼の晴れ姿を皆で応援しようではありませんか。更に来年は静岡県稲門祭を我らが三島稲門会が受け持つ事になりました。大会を成功させるために、皆様方の絶大なるご支援とご協力を心からお願いする次第です。【静岡フィルター販売（株）代表取締役・一九六一年第一政経・経卒】

VOL.13 2016 稲門三島



表紙スケッチ画/河辺和年元会長（1937~2013）

早稲田大学校友会三島稲門会誌
発行者：早稲田大学校友会静岡県支部三島稲門会長　益原 章生
発行所：早稲田大学校友会三島稲門会「稲門三島」編集委員会
〒411-0034 三島市加茂川町３・５・303
TEL. 055-973-7526
e-mail：ken@zkai.co.jo
印刷所：ＮＡＰＯ 株式会社

投稿のページ

話勢多 WASEDA

わが青春　家庭教師の記

木村　幹雄

昨年は卒業50年の節目にあたり、10月に開かれた恒例の「ホームカミングデー」で記念式典に出席し、その後クラスやゼミ仲間と旧交を温めた。早いもので卒業してもう半世紀も経つのか、とそれぞれ思い出話に花を咲かせたが、私の大学時代は比較的自由奔放で、今思うと感慨もひとしおである。思い出は山ほどあるが、忘れられないのが入学早々アルバイトで家庭教師になったときのことであろう。

科目登録を済ませてクラス分けが決まった後、すぐに学生課にアルバイト探しに出かけた。当時、国電浅草橋駅からほど近い実家から通学していたので部屋代がかからず、食費・通学費それに学費等すべて親が出してくれていた。しかし、さすがに小遣いまでせびるわけにはいかず、以前から大学に入ったら衣服代や旅行費用その他遊ぶための金は自分で稼ぐつもりでいた。学生課の掲示板にはいくつかの家庭教師募集の張り紙があったが、その中で科目が英数、生徒・中2女子、夜7時から9時までの2時間で週2回、期間・4月から7月末までの4か月、場所が両国駅近くという内容の募集が目についた。今となっては給与がいくらだったかは思い出せないが、他のアルバイトに比べると破格の好条件のような気がした。当時、家庭教師は比較的人気があり競争率も高かったようだが、家が隣駅で近かったせいか、申し込んだら新入生の私に学生課がすぐに紹介状を出してくれた。

（裏面に続く）

（承前）さっそく募集先の家に行ってみたが、駅に近いビルの1・2階が服地問屋の店舗と事務所で、その3階に家族が住んでいた。玄関では両親と当の娘が出迎えてくれたが、紹介状を母親に渡すとしばらくそれを見たあと、あからさまに嫌な顔をして「早稲田ですか…？　東大生を頼んだんですけどねえ」と言われた。私は返事をすることもできずそのまま立ちつくすだけだったが、それでも父親が居間に案内して娘のことを話してくれた。

父親の話によると、娘を中高一貫の私立女子校に入れたが、自分が高校しか出ていないのでせめて娘は大学に入れたい、それにしては1年次の成績が悪く、早めに学力を高めたいとのことだった。聞いてみると都内のいわゆるお嬢様学校で、生徒は全員が三つ編みおさげ髪として有名なところだった。娘に変な家庭教師がついたらクビにして別の人にかえるために1学期限定の短期にしたのでは、と私には見てとれた。

母親からはあまり期待されていないことがわかったが、それだけに私は生徒の学力が上がることだけを考え、英語と数学の教科書を中心に自分としては生徒が完全に理解するまでわかりやすく、それこそ真剣に教えることに努めた。いつも授業が始まってから1時間ほどすると、母親がドアを開けて部屋に入ってきてお茶とお菓子を出してくれた。18歳の少年が部屋の中で14歳の少女に悪さをしていないか様子を見に来たのだろうが、それに対する意地もあって私はお茶とお菓子を一切口にしなかった。あるとき、アイスクリームを出してくれたことがあった。当時はアイスキャンデーは安いのでよく食べたが、アイスクリームはまだ高価であまり食べることがなかったように思う。授業が終わったあと母親がそのまま溶けたアイスクリームを見て、「先生、召し上がってくださればいいのに」と怒ったように言ったので、さすがにそれ以後は出されたものはすべていただくことにした。

そんなことをしているうちに1学期の中間試験の結果が出て、少しではあるが点数が上がり、それ以上に期末試験後の成績が英語・数学とも「5」になったのは生徒以上に私がうれしかった。

7月下旬になると母親から、7月までの約束だったが引き続き2学期も来てほしいと言われた。しかし、私は出会ったとき最初に言われた「早稲田ですか…？東大生を頼んだんですけどねえ」という言葉に最後までわだかまり、その申し出を固辞した。最後の日の授業が終わり、家を辞去するときに母親の横に立っていた生徒が何も言わず、その目が潤んでいたのが私の青春の思い出として残っている。【マンション管理士・MICマンション総合管理事務所所長・66商】

初心忘るべからず

青木　代司一

最初の受験を終えた時のことです。隣にいた受験生としてはやや老けた感のある男性から声をかけられました。「ワシ、実は阪大の2回生やねん。早稲田の建築に入りたくて毎回受験しとるんやけど、今回あかんかったら諦めようとおもっとるんや」。親が建築の仕事をしているというだけの理由で早稲田を受験した当方にとっては旧帝国大学（古い表現ですが）の現役学生がそこまで惚れ込んでいることに興味を持ち、結局三島駅に到着するまで、彼の講義を聞かせてもらうことになりました。話の大半は忘れてしまいましたが、「シドニー・オペラハウス」については、深く脳裏に刻み込まれました。

1955年国際建築設計コンペが実施され当時無名のデンマークの建築家ヨーン・ウツソンの案が選ばれました。総工費700万ドル、1963年の完成予定で工事はスタートしました。しかし当初から危惧されていたとおり、工事は困難を極めます。まず、ヨットの帆のような外観のコンクリート・シェルを当時の技術では実現することができず、世界中の構造建築家に相談し、繰り返し実験がおこなわれました。東京タワーの設計者である内藤多仲早稲田大学名誉教授にも声がかかりました。そして工費は膨らみ最終的に当初の15倍、1億ドルに達してしまいました。

轟々たる非難のなか、失意のうちにウツソンはシドニーを離れ生涯二度とオーストラリアの地を踏むことはありませんでした。しかし、2007年世界遺産（建造物としては最も新しい）に認定され、ウツソンの名誉は回復されました。今も、シドニー湾に白鳥が羽を広げたような優雅な姿を映し出します。

昨年、定年を迎え独立起業することになりました。この話とともに別れ際に彼が発した言葉を胸に秘めて。「建築やるなら早稲田だよ」。【一級建築士事務所青木設計工房・79理工】

大転機一喜一憂

杉澤　正人

平成二七年は、私の人生航路の大きな転機となった年でした。

多くの方に支えられ、また三島稲門会の皆様には心からの励ましを頂き、無事三島市議会登壇へと駒を進める事が出来ました。改めて篤く御礼申し上げます。

平成二五年に、地元中郷西中学校、二六年に錦田中学校で非常勤講師の任を仰せ付かった事から、教育関係者、自治会、地元有志の方々との交流が増え、地域の問題、防犯・防災活動に参画する中で、二七年四月の統一地方選への出馬を決意致しました。

選挙戦はもちろん、当選後も全て未経験の事ばかりですが、次々と入る各種行事と、その開催時刻に追われる毎日を送っています。

市議会定例会の一般質問に関しては、多少の要領が見えてきましたが、委員会活動や予算審議などでは、まだまだ力不足を実感します。審議内容そのものは、今までの人生経験と、自らの信念に照らせば、何が必要で何が問題なのかは解ります。難しいのは現実の政治的パワーバランスの中で、いかに自己主張し、結果としての成果をどこまで引き出せるかという点です。

また議員個人としての調査研究に並行して、議員団、会派、委員会、有志等での研修や行政視察行事が定例議会の間に組み込まれて行きますが、これが日程的にかなり厳しいものがあり、ここで得られるものと時間の浪費との板挟みに一喜一憂する感覚から逃れられません。「彦根城」と「ヒコニャン」を同時に見るような感じと言ったら、それは違うだろうと言われそうですが・・・。

「熊本城」と「くまモン」も昨年の視察の中で目にした光景でした。日本全国それぞれのご当地に「ゆるキャラ」が溢れている事をご報告致します。【三島市議会議員・行政書士・80文】

三島と早稲田と私

多田　悦子

結婚を機に三島に住み始めてから、もうすぐ丸10年が経つ。新幹線でたった1時間、東京への通勤圏でもあるのだが、どんなにその便利さを説明しても、東京の友人達は随分と遠くに引っ越してしまったと思っているらしい。都内での集まりに参加すると「えっ！　いつ来たの？」（つい1時間前に家を出ました）「えぇっ！　今日帰るの？」（はい、在来線を乗り継いで帰る埼玉、千葉在住のあなた方よりたぶん早く家に着きます）という会話が毎回繰り返される。

ならば、実際に来てこの近さと住みやすさを体感していただこうと、折に触れ、友人を自宅に招くことにしている。この10年の間、我が家を訪れた早稲田の友人はのべ30人超。三島駅に迎えに行くと、どの友人も必ず第一声に「三島、近いんだね！」と驚きの声を上げる。だから近いって何度も説明したのに…、と内心思いつつも、楽しい三島の休日が始まる。まずは昼食に広小路の桜家へ。鰻の行列を待つ間に、源兵衛川のせせらぎを軽く散策。食後は三島大社でお参りした後、柿田川湧水群で心の洗濯。そして夕方になれば、我が家で楽しい宴会が始まる。せっかくなので静岡を堪能していただくべく腕を振るう。ダイニングテーブルに目一杯並べた手料理は、静岡おでん、富士宮焼きそば、沼津産の鯵のたたきや由

比産の桜えびのかき揚げも。野菜はすべて直売所で仕入れた地元産だ。乾杯は沼津のベアードビールで。三島焼酎のチットラッツもどうぞ。22時過ぎの新幹線の終電までたっぷり三島の夜を満喫し、友人は皆、満腹満足で帰って行く。え？　居心地が良すぎて帰りたくない？　だったら、一泊して明日は沼津港をご案内しましょう。せっかくなので今夜は広小路の源兵衛川沿いのとっておきのバーにもお連れしましょうか。そんなお楽しみが三島にはいくつもある。

東京を離れても、こうして早稲田の仲間とつながり、旧交を温めるきっかけを与えてくれるこの三島の街に、富士山を眺めながら日々感謝している。【（株）Z会・00文】

「ちんどん屋」という文化を広めたい

中山　惇

「とざい、と〜ざい」朗らかな口上が商店街にこだまする。そう、ちんどん屋だ。ちんどん屋と聞いて皆さんはどんなことを思い描くでしょうか？　着物やピエロの奇抜な衣装に身を包み、男女問わず「ユニーク」な化粧をし、太鼓・鳴り物を駆使しながら賑やかに街を歩く芸能集団。しかしてその実態が冷静な広告宣伝業であることを知る人は多くありません。ではなぜ私は知っているか？　答えは簡単。ちんどん屋だからです。

遡ること2年生の春。当時私は音楽サークルに入りたいと思っていました。そんなある日、三朝庵の横を通りかかると、カラフルなのに「ギトッ」としたビジュアルのポスターに気を取られ・・・「早稲田ちんどん研究会」。昔見たことのあるちんどん屋を思い出し、太鼓と着物と道化っぽさに惹かれて訪ねてみたのでした。その練習で叩いた大太鼓はもう楽しくて楽しくて、心弾むそのもの。片足が沼にハマった瞬間でした。

そして翌週現場デビュー。真っ白いドウランを塗られ頬っぺたには真ん丸チーク。金髪のかつらをかぶらされ青・緑・オレンジの衣装・・・。先輩からは「宣伝するんだよ」とただ一言。状況も呑み込めないまま太鼓をたたき、「いらっしゃいまーせー！」と大声を出し、ビラを配る。私たちを見た人はその存在に反応さまざま。今思えばあの空間は、私にとっても未知との遭遇だったのでしょう。それでも笑ってビラをもらってくれる人がいて、こちらも笑顔になり、おしゃべりもしちゃったりなんかしちゃったりして。底なし沼に完全にハマっていたのでした。

ちんどん屋は「宣伝業」であるが故、ただ明るく愉快に振る舞うだけでは用を果たしません。依頼主の看板として街に出て、人を集めてこそなんです。見た目、音、動き、振る舞い、すべてはそのための手段でしかありません。愉快さと冷静さの両立。言うなれば「チンドニズム」でしょうか。それこそ私が三島で広めたい文化なんです。【ファイナンシャルプランナー・11年文】

太鼓を叩く中山さん

SNSが同窓生をつなぐ

本告　菜保子

一昨年の春に大学を卒業し、就職のために三島に引っ越して来てから、そろそろ2年。仲の良い同級生のほとんどは東京暮らしで、三島・東京間の微妙な距離感に、「急に夜ご飯に誘われても行けないもんな…」と歯がゆさを感じることも。

そんな私を支えているのがSNSです。「Facebook」「twitter」「LINE」…。さまざまなSNSが、距離を越えて私と同窓生たちを結びます。SNSは「リアルタイム性」に優れていることが特徴で、実際に会わずともその人の近況を垣間見ることができます。

先日サークルの先輩が出産されたとのことで、「Facebook」で愛娘の写真を紹介してくださいました。その愛らしい姿に、投稿に対するコメントが殺到し、ひと目赤ちゃんに会おうとわざわざ関西から上京する方もいらっしゃるほどでした。（どうやらこの写真のおかげで、出産祝いのプレゼントもたくさん届いたとか…。）この先輩夫婦は、サークルの同級生同士だったこともあり、コメントも早稲田生からばかり。コメント欄の中で「久しぶりだね」とコメント者同士の交流が生まれている場面もしばしば見受けられました。近況の報告だけにとどまらず、思わぬ再会や新たな出会いが生まれやすいのもSNSのメリットです。

起業のお知らせ、自身が主催するイベントの告知、トライアスロン完走の報告・・。三島にいながら、さまざまな場所で同窓生が活躍しているニュースをキャッチし、「私も頑張らなくては！」と毎日の活力に変えています。（三島稲門会の「Facebook」も高頻度で更新されていますね！）

ただ、SNSは優れたコミュニケーションツールではありますが、やはり現実でのコンタクトが一番大切であることには、変わりありません。「オンライン」と「オフライン」、両方のメリットを活かし、同窓生ネットワークの一員でありたいと思います。

稲門会をはじめ、対面でお話できる機会の一つ一つを大事にしたいものです。【（株）Z会・14教育】

私と早稲田

柏木　類

先日、卒業して初めての早稲田祭に行ってまいりました。早稲田大学を離れてたった1年ではありますが、後輩たちの盛り上がる輪になんとなく馴染みきれず、社会人と学生の壁を感じ少し寂しい気持ちになりました。

私と早稲田との出会いは、高校生の頃のオープンキャンパスに遡ります。オープンキャンパスで目にした応援部の校歌、応援歌、そして学生の活気は今でも鮮明に覚えており、私が早稲田を志す動機になりました。「この人たちの仲間になりたい」――そんな単純な気持ちでした。

両親の支えもあり運よく早稲田大学に入学できた私は早稲田祭運営スタッフというサークルに入りました。総勢600名という巨大サークルで、多くの仲間との出会いに恵まれました。そんな出会いがまた新たな出会いを生み、私の視野を大きく広げてくれました。学生時代のアルバイト先も、卒業論文のテーマも趣味の日本酒も、今働いている職業も、将来の夢も、すべての原点は早稲田での仲間との出会いにあったと思います。そして私は、見事5年間通い上げた早稲田大学を卒業しました。

現在、私は証券会社に勤務しており、初めての配属が三島市でした。全く縁もゆかりもない土地に来てはじめに私が考えたのは早稲田の仲間がいないかということでした。そして三島稲門会の存在を知り、今この原稿を書くに至ります。早稲田という繋がりだけで年代も違い経験豊富な皆様と親睦を深めることができることを大変嬉しく、早稲田大学を卒業できたことを誇りに思っております。稲門会の諸先輩方、今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

早稲田祭の帰り道、私が通った文学部のキャンパスに目を向けると、卒業式をした記念会堂が跡形もなく無くなっておりました。来る20年の東京オリンピックに向けて準備を進めているのだと思いました。私も20年には一人前の社会人として若手を引っ張れる人間になろうと決意を深めました。【証券会社勤務・15文化構想】

会報「稲門三島」原稿募集中

会員投稿ページに原稿をお寄せ下さい。ご希望の会員は三島稲門会役員にお申し出ください。（編集部より）

《お悔やみ》

当会の田口義昌副会長が、2月4日、急逝されました。田口さんには、三島稲門会のために長年にわたり幹事長・副会長としてご尽力いただきました。まだまだこれからもリーダーの一人として頑張っていただきたかったのに、誠に残念でなりません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

2015年度の行事

■三島稲門会2015年度の活動■

2月6日　三島稲門会2015年度総会（東レ研修センター）来賓・講話等詳細は別記　出席32名

2月21日　校友会県支部役員会（熱海市　食事処ひょうたん）

4月15日　校友会県支部役員会（静岡クーポール会館）

6月20日　静岡県稲門祭（志太榛原稲門会主催）（ホテルアンビア松風閣）三島稲門会より9名参加

県稲門祭・応援部主将となった韮高出身・鈴木君と

7月25日　早慶合同懇親会（みしまプラザホテル）三島稲門会より19名参加

8月1日　三島稲門会役員会・新人歓迎会（ザ・仲次郎）第一部DVD鑑賞（「早稲田スポーツ史」）第二部懇親会　新人1名総勢21名

8月21日　校友会県支部役員会（ホテル沼津キャッスル）

10月21日　三島稲門会役員会（ザ・仲次郎）

11月21日　三島稲門会忘年会（割烹　松韻）出席19名

12月11日　沼津稲門会忘年会（ホテル沼津キャッスル）

1月16日　三島稲門会より3名参加　三島稲門会拡大役員会（三島市防災研修室）

1月30日　校友会県支部役員会（浜松市　うなぎ藤田）

（川渕健二記）

三島稲門会　総会15

■三島稲門会　総会2015■

平成27年2月6日、東レ研修センターにて三島稲門会平成27年度総会が行われた。

総会は小島健昭幹事長の司会により、森田眞覧会長が挨拶、来賓として沼津稲門会の鰐澤啓司副会長と眞野浩之事務局長が紹介された。

議事に入り、会務報告は幹事長が、会計報告は井出雅光会計幹事が務め、本年度の活動計画も含めて了承された。また本年度は役員改選があり、新会長として益原章生校友（61政経）が選出され、総会は滞りなく終了した。

総会後は伊豆史談会常任理事・土屋比都司校友（68商・当会幹事）による「山中城跡の成立と復元」についての講演があり、地元稲門にとっては改めて現地を訪れてみたくなるような興味深いお話をうかがうことができた。

引き続き懇親会が行われ、益原新会長の挨拶、岩村行正校友（64法）音頭による乾杯のあと、和やかに歓談、校歌斉唱をもってお開きとなった。来賓として三島三田会・稲葉良弥会長代行の参加もあった。

参加者　南方甫、足立光弘、和多邑之、益原章生、小野惇一、世古口健、岩村行正、榎本昭雄、森田眞覧、石井登喜男、木村幹雄、西村信義、小西政司、土屋比都司、菅野俊男、長倉春生、井出雅光、飯塚弘、青木代司一、杉澤正人、土屋研二、小島健昭、浦上健、川渕健二、荻野嘉彦、高城大亮、野口浩毅、多田悦子、永田廣幸、二口晋一、小池亜由美、本告菜保子

（川渕健二記）

（「早稲田学報」より転載）

ホームカミングデー

■2016年度ホームカミングデー■

ご案内対象卒業年次(予定)

①（卒業50周年目）1967年(昭和42)

②（卒業45周年目）1972年(昭和47)

③（卒業35周年目）1982年(昭和57)

④（卒業25周年目）1992年(平成4)

⑤（卒業15周年目）2002年(平成14)

⑥①～⑤と同期入学で卒業年の異なる方

⑦①～⑤の年および今年推薦校友になられた方

＊開催は2016年10月23日（日）の予定で、詳細は8月上旬に大学校友のウエブサイトに掲載の予定。

（早稲田大学校友会より）

三島稲門会　役員15

●顧問＝森田眞覧（65商研）●会長＝益原章生（61政経）●副会長＝田口義昌（67政経）・井出雅光（72理工）・青木代司一（79理工）●幹事長＝小島健昭（85法）●会計幹事＝土屋研二（82政経）●幹事＝小西政司（67商）・木村幹雄（66商）・土屋比都司（68商）・長倉春生（69教育）・杉澤正人（80文）・永田廣幸（06教育研）●事務局長＝川渕健二（89文）・事務局次長＝小池亜由美（14商）

事務局便り

■三島稲門会　総会2016■

4月15日に開催される三島稲門会定期総会に、早稲田大学野球部第16代監督、野村徹氏が講演者としていらっしゃいます。メジャーリーグで活躍する青木宣親選手を育てたことでも知られる野村氏から、どんなお話がうかがえるのか。今から楽しみですね。みなさんもぜひ総会にいらしてください！

■2017年静岡県稲門祭■

2017年の静岡県稲門祭が、三島で開催されることに決定しました！

2008年の三島開催から、実に9年ぶりとなります。そして今回は奇しくも、地元出身の鎌田総長をお迎えすることになります。開催時期は2017年5～6月頃。これから一年と少しをかけて準備していきます。その際、校友のみなさまには何かとお声がけすることになりますが、ご協力、よろしくお願いいたします。

■年会費納入のお願い■

本会の2016年度年会費（3，000円）を同封の振込用紙にてご送金下さるようお願い申し上げます。また、次の口座への振込もできます。

・スルガ銀行三島セントラル支店
・口　座　普通3472501
・宛　先　早稲田大学三島稲門会
会計　土屋研二

編集後記

去年の県稲門祭で同席した、韮山高校出身の応援部員、鈴木崇正君。写真からもわかるようになかなかの面構えだったので、杯を交わしつつ、「来年は主将だね！」「いや、とんでもないです」なんて会話も交わしていたのであるが、なんと本当に今年から応援部主将である。やはり、謙虚な人間こそ人の上に立つ、ということだろう。

それはともかく、この夏、鈴木君が故郷へ錦を飾るべく、応援部を率いてやってくる予定です。詳細はまたメール等でお知らせする予定ですが、みなさん、地元で公演をやって空席があったりしちゃあ、鈴木君の沽券にかかわる。いや、我々の沽券にもかかわる。ぜひ、みんなで盛り上げましょう！

（川渕健二記）

■『稲門三島』編集委員会■編集長＝川渕健二（89文）・編集委員＝小島健昭（85法）　小池亜由美（14商）